

取扱説明書及び部品表

Takakita

スライタンカスプレッダ

STS18000



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**スラリータンカスプレッダ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	20
各部の名称とはたらき	21
トラクタへの装着	23
1. 装着のしかた	23
2. セーフティチェーンの接続	24
3. ユニバーサルジョイントの取付け	25
4. 油圧ホースの接続	25
5. 灯火装置の接続	26
運転に必要な装置の取扱い	27
1. ステアリング機構の取扱い	27
2. チェック弁の取扱い	27
3. ハシゴの取扱い	27
作業方法	29
1. 作業手順と要点	29
2. 移動するときは	30
3. タンクへの投入	30
4. 散布作業	30
5. 傾斜地での作業	31
6. タンクの洗浄	31
作業前の点検について	32
1. 点検一覧表	32
簡単な手入れと処置	33
1. シーズン終了後のタンクの洗浄	33
2. タイヤの点検・修理	33
3. 車輪止め	34
4. 各部のグリスアップ・注油	35
5. 長期格納時の手入れ	36
不調診断	37
付表	38
1. 主要諸元	38
2. 油圧回路図	38

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

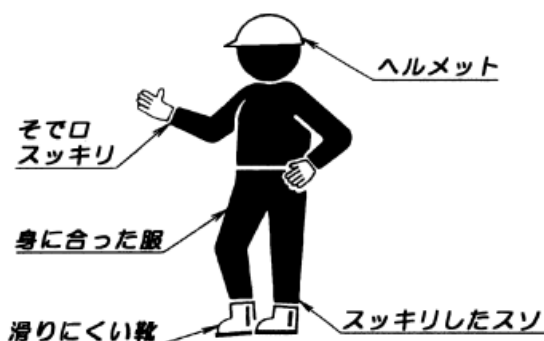
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。
- 16歳未満の人



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ

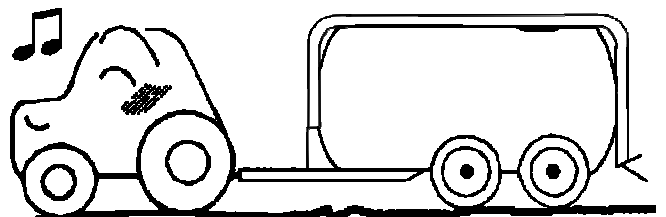
適応トラクタkw(PS)
110.3～(150～)

- ドローバ（標準）：スイングドローバ

- PTO回転速度：540min⁻¹
(rpm)

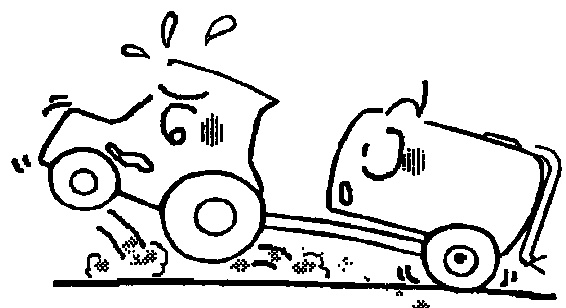
- 油圧取出し：複動1系統

- ブレーキ油圧：1系統



(4) 装着時の前後バランス確認

ドローバに取付けして糞尿などを積載したときのヒッチ荷重に、トラクタ重量を加えた値の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはフロントウェイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着しないでください。



⚠ 安全に作業するために

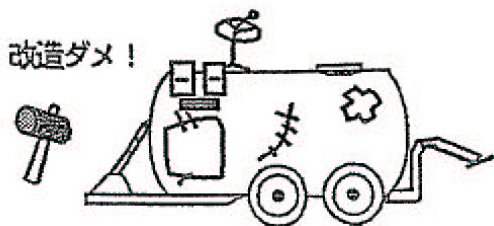
(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。

また、改造しないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

家畜の糞尿（液状）散布を目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができ

るようにしてください。

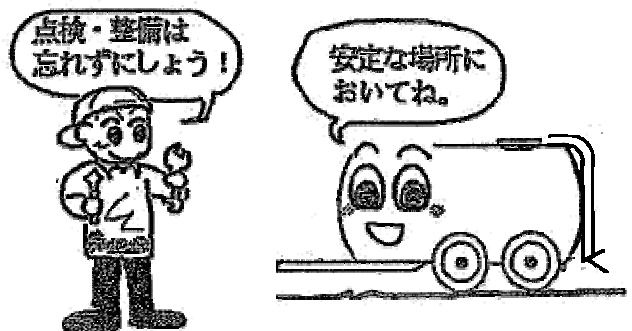


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

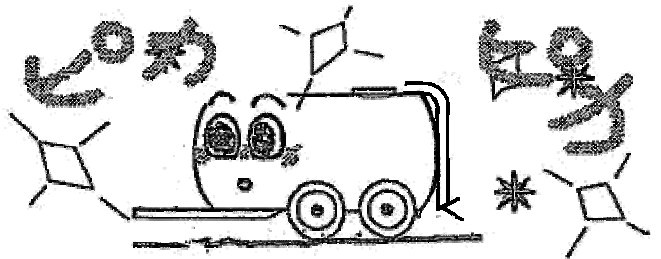
(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除するときは交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でPTOを切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも機械を常にきれいに維持してください。

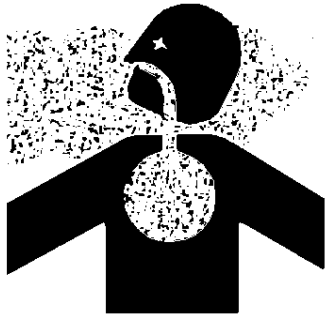


(5) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときは、エンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

⚠ 安全に作業するために

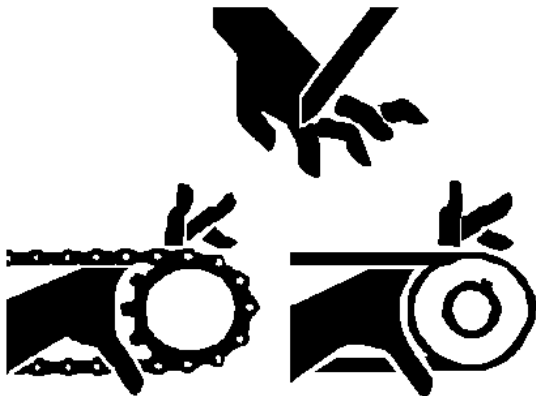
エンジン始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(6) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元通りに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(7) 注油・給油をするときは

P T Oを切り、エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。

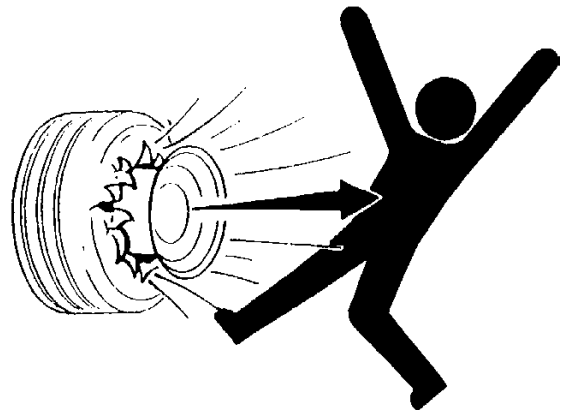
(8) タイヤの点検・修理をするときは

- ①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③タイヤに傷があり、その傷がコード

(糸) に達している場合は、使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

- ④タイヤ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備設備をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップなどの専門店で依頼してください。



(9) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部には十分注油して、屋内の平坦な場所に車止めをして保管してください。

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

(2) P T O回転中は危険です

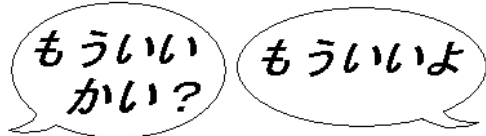
回転部には近寄らない。触れないを守ってください。



⚠ 安全に作業するために

(3) 2人以上で作業をするときは

2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

P T Oを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

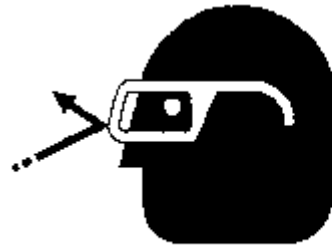
(5) 散布作業をするときは

散布作業中は後方にスラリーが約15m飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを十分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(6) キャビンなしのトラクタに装着して作業する場合

スラリーが飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用してください。



保護メガネ着用
保護マスク着用

(7) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎたり、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力低くして作業を行ってください。

(8) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。
- ② 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。

(9) 回転中のユニバーサルジョイントには触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ傷害を負うことがあります。



⚠ 安全に作業するために

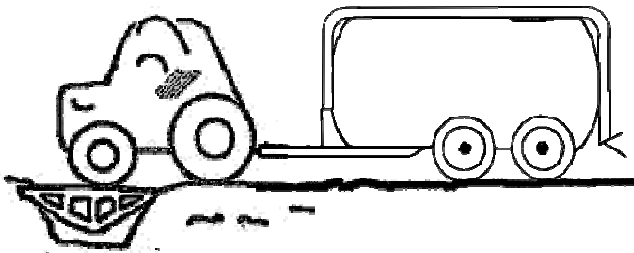
(10) 移動および作業の旋回の際は

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



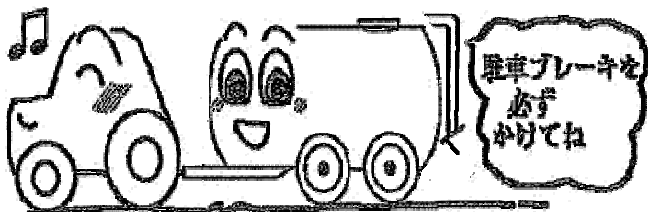
(11) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(12) 作業途中で運転席より離れるときは

機械を平坦な場所に降ろし、PTOを切りエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。また、本機に車止めをしてください。



(13) 高圧油に注意してください。

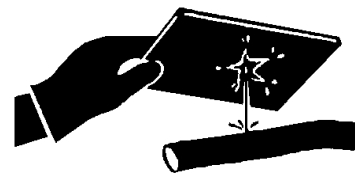
①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。

②高圧油による傷害を防止するために、配管・ホースなどの取外し前には必ず残圧を抜いてください。

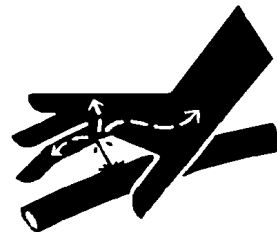
③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。

④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことは止めてください。

必ず、保護メガネをかけ紙などを使用して調べてください。



⑤万が一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。

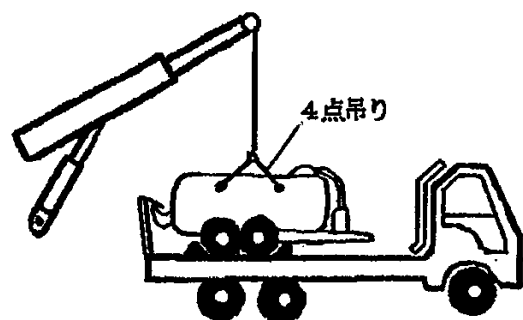


⚠ 安全に作業するために

4. 輸送するときは

(1) トラックなどへの積み込み・積降しは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ車止めをしてください。積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

公道走行するときは

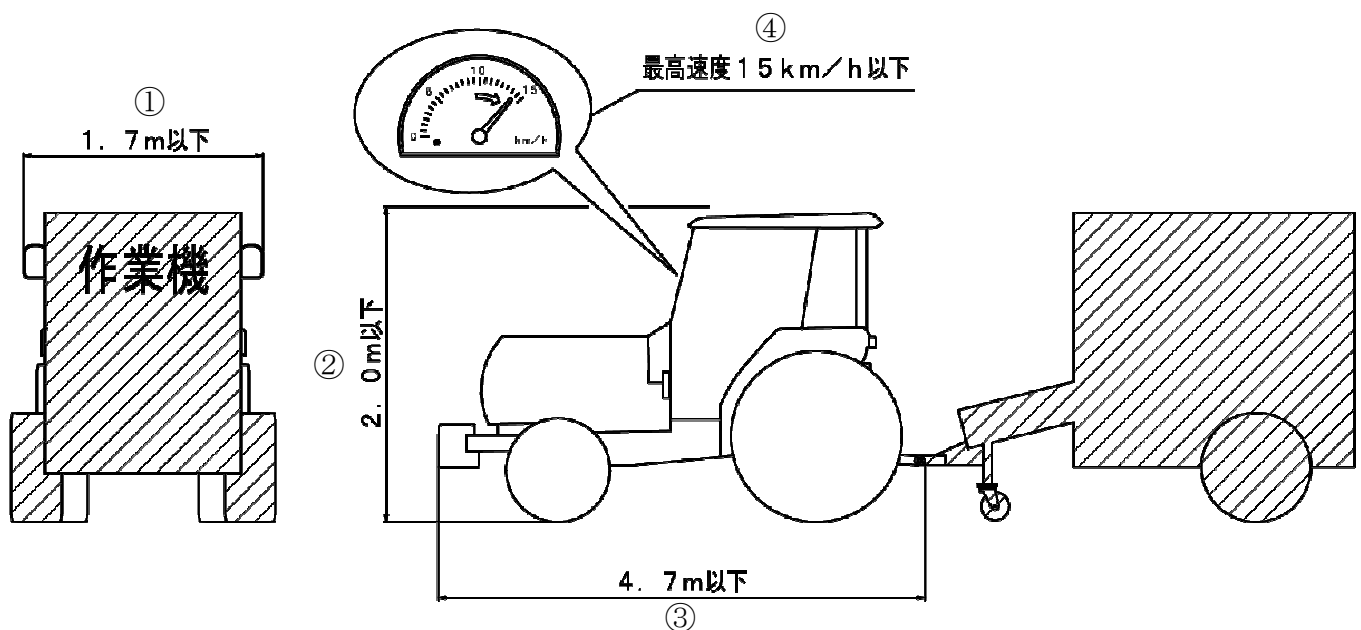
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道走行を行うことができます。公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15 km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許（農耕用に限る、も含む）とけん引免許（農耕用に限る、も含む）が必要となります。ただし、車両総重量750 kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許（農耕用に限る、も含む）は必要ありません。

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| ① 幅1.7 m | ② 全高2.0 m（安全キャブや安全フレームは2.8 m） |
| ③ 全長4.7 m | ④ 最高速度15 km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。



⚠ 安全に作業するために

（２）保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※1 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	②全幅が2.5mを超えるもの ・道路管理者（地方整備局、各都道府県、各市町村等）に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが12mまたは全高3.8mを超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※2 ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが12mまたは高さが3.8mを超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを超えない大きさのもの

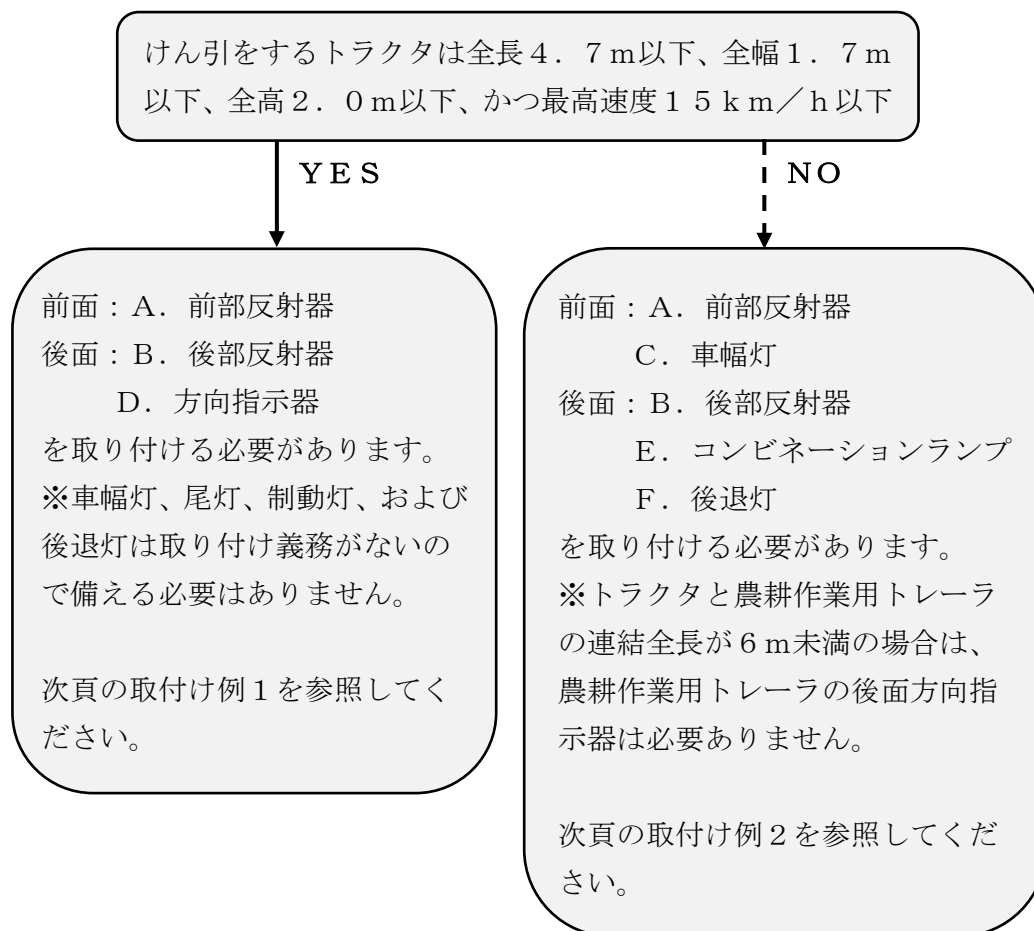
※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者（地方整備局、地方自治体等）から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

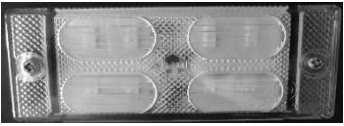
⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置



A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			

⚠ 安全に作業するために

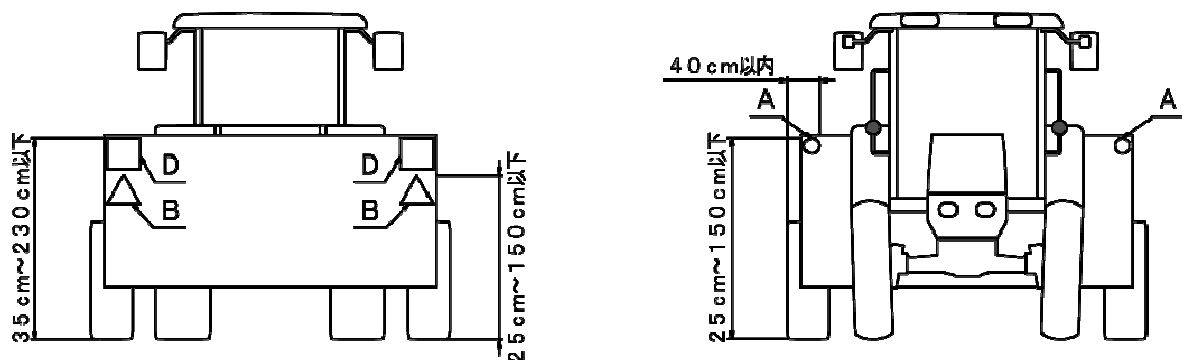
● 装備の取付け位置

・道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。

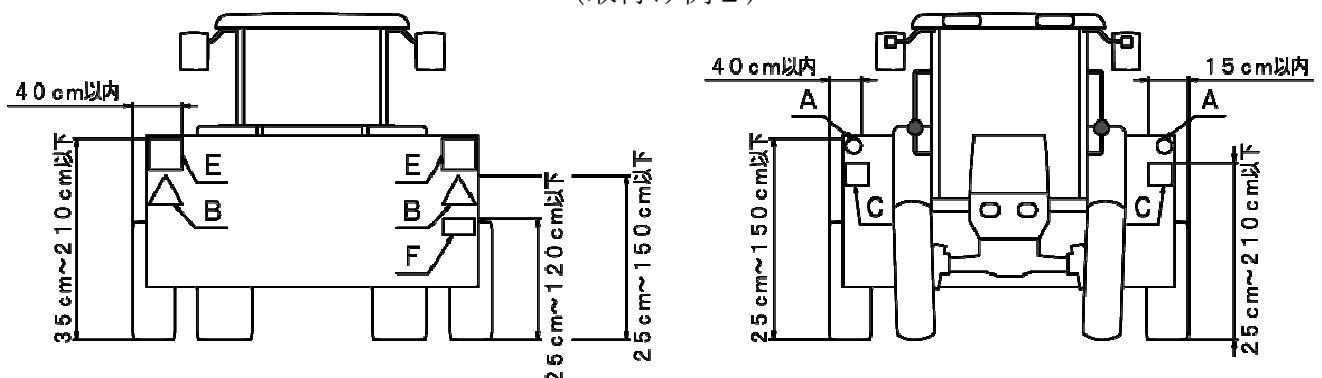
- 前部反射器（リフレクター） 最外側から40 cm以内、高さは地上25 cm以上150 cm以下
- 後部反射器（リフレクター） 最外側から40 cm以内、高さは地上25 cm以上150 cm以下
- 車幅灯（ポジションランプ） 最外側から15 cm以内、高さは地上25 cm以上210 cm以下
- 方向指示器（ウインカー） 最外側から40 cm以内、高さは地上35 cm以上230 cm以下
- 尾灯（テールランプ） 最外側から40 cm以内、高さは地上35 cm以上210 cm以下
- 制動灯（ブレーキランプ） 最外側から40 cm以内、高さは地上35 cm以上210 cm以下
- 後退灯（バックランプ） 高さは可能な限り25 cm以上120 cm以下

- ・車幅灯は前方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・コンビネーションランプは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・後退灯は後方から確認（視認）できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

（取付け例1）

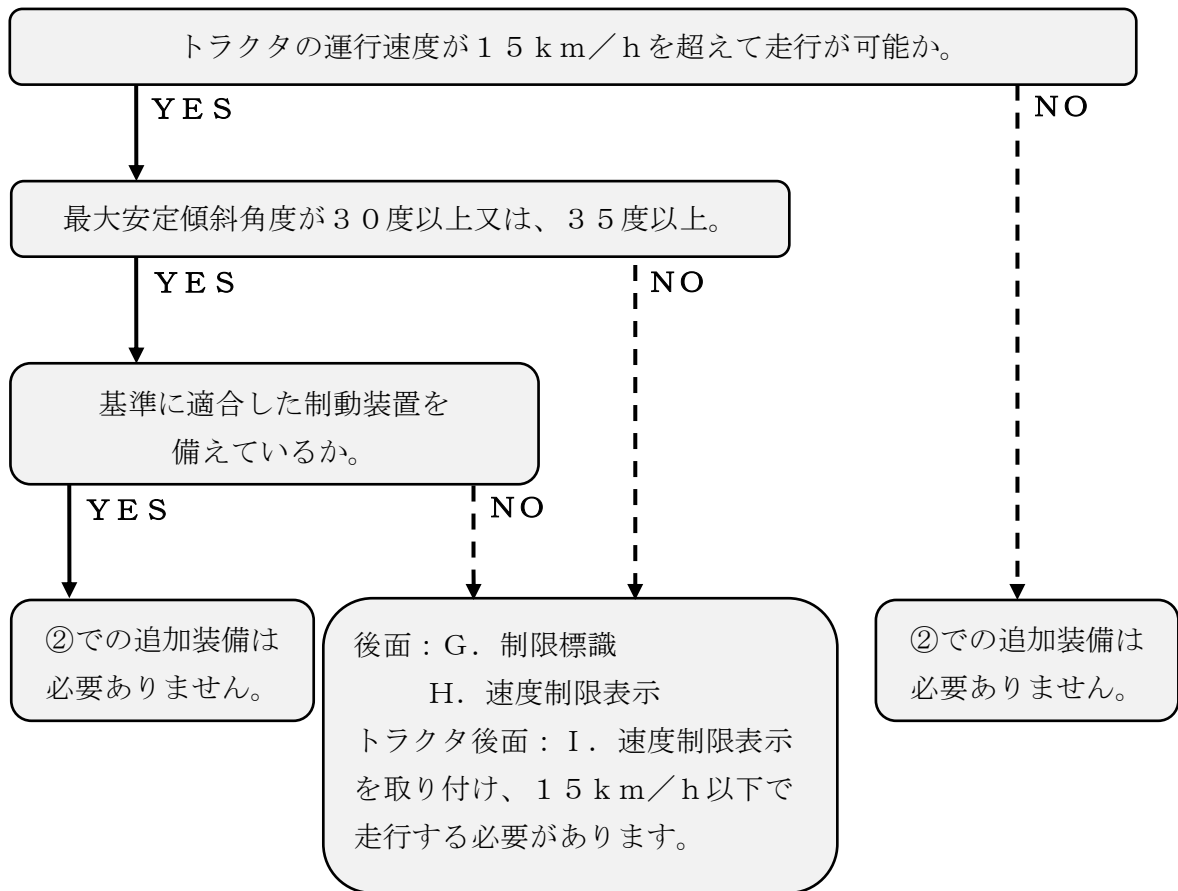


（取付け例2）



⚠ 安全に作業するために

②トラクタの運行速度



●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15 km/h以下で走行してください。

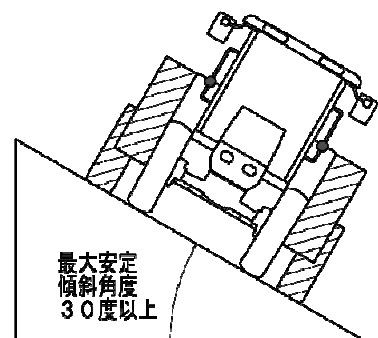
<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上（車両総重量が車両重量の1.2倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの）であれば、通常の方法で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15 km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、Hを作業機後面に表示、

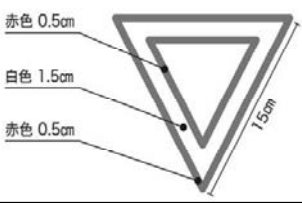
Iをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。



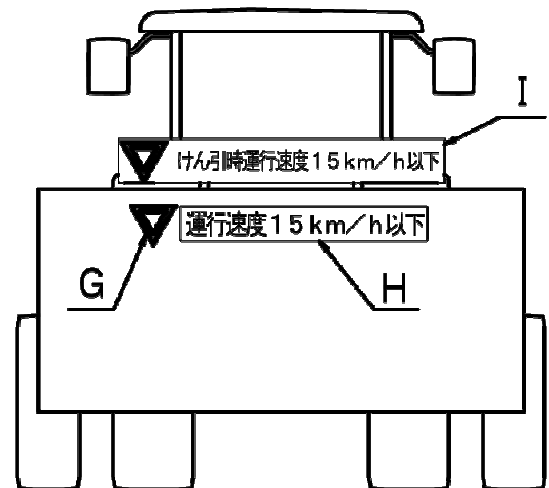
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

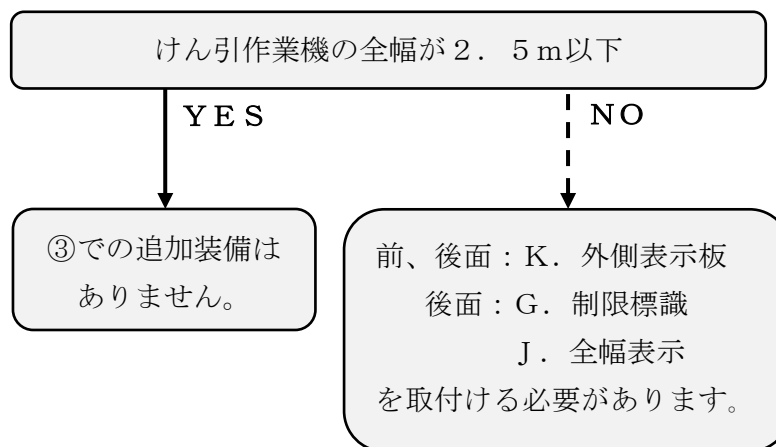
- ・ G、H、I は後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ H は運転席にも表示する必要があります。

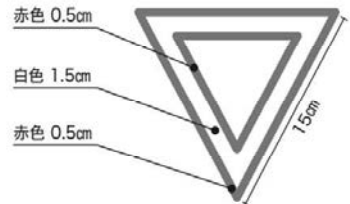
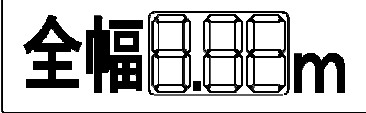
G. 制限標識	H. 速度制限表示（作業機側）
	
I. 速度制限表示（トラクタ側）	
	

（取付け例）



③ 作業機装着時の全幅



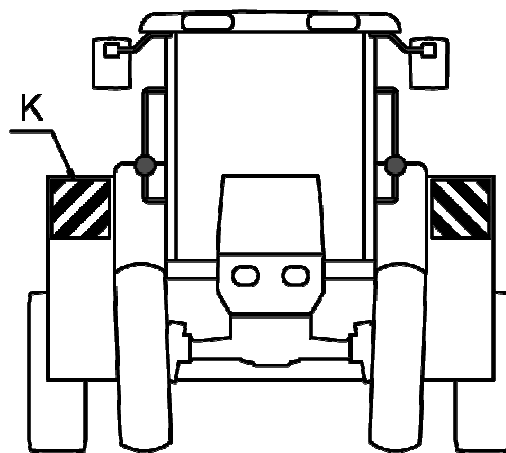
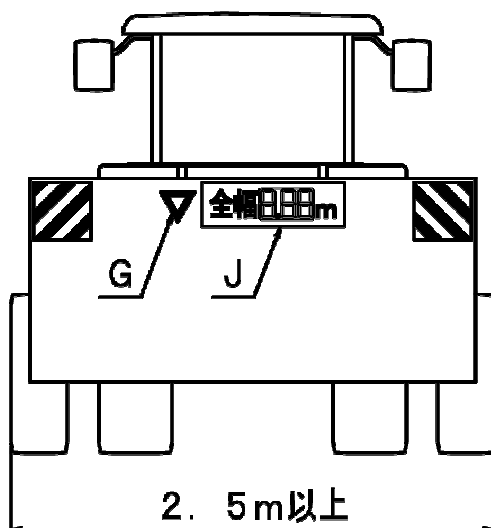
G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板
		

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

- ・ G、J は後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ K は前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合	(ア)
	上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合	(イ)
	全幅が2.5mを 超える場合	(ウ)

灯火器・ステッカー

A. 前部反射器



B. 後部反射器



C. 車幅灯



D. 方向指示器



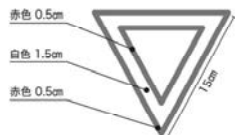
E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 制限標識



H. 速度制限表示
(作業機側)

運行速度15 km/h以下

I. 速度制限表示
(トラクタ側)

けん引時運行速度15 km/h以下

J. 全幅表示

全幅0.88m

K. 外側表示板

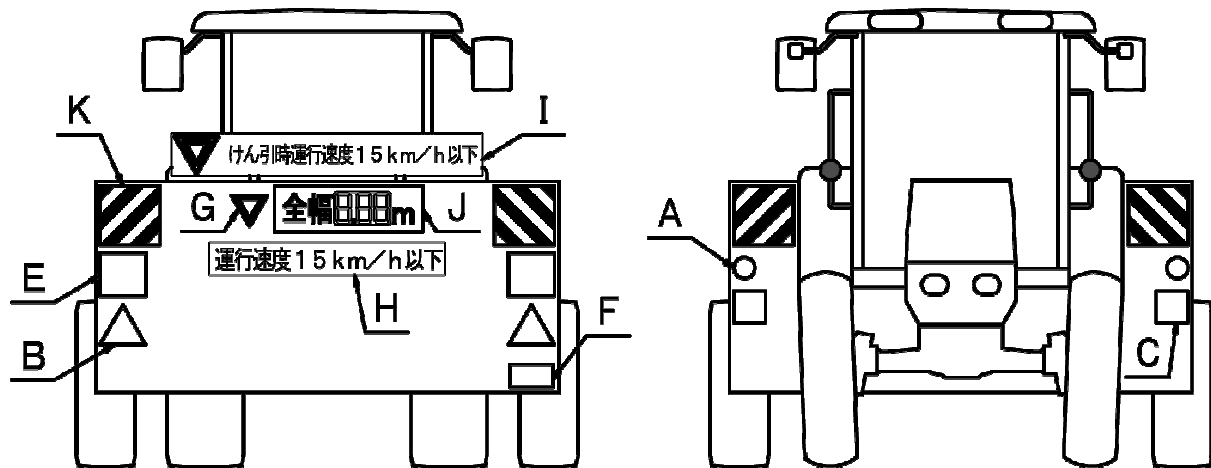


※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者（国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村）から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

- p. 11 「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

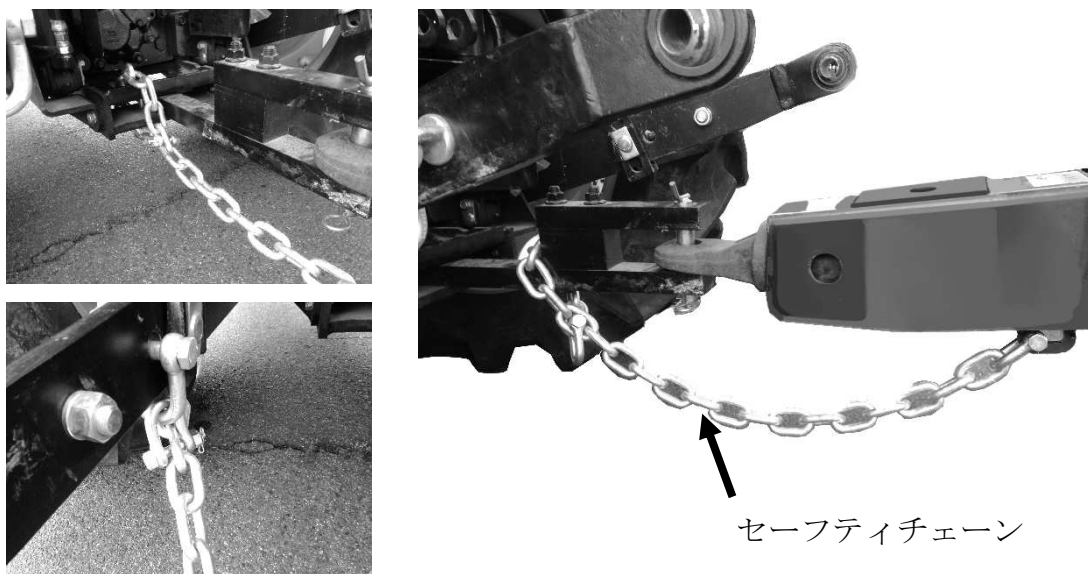
例：（ウ）に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

（４）農耕作業用トレーラの構造要件（分離時の連結維持構造）に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置（ドローバ等）が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



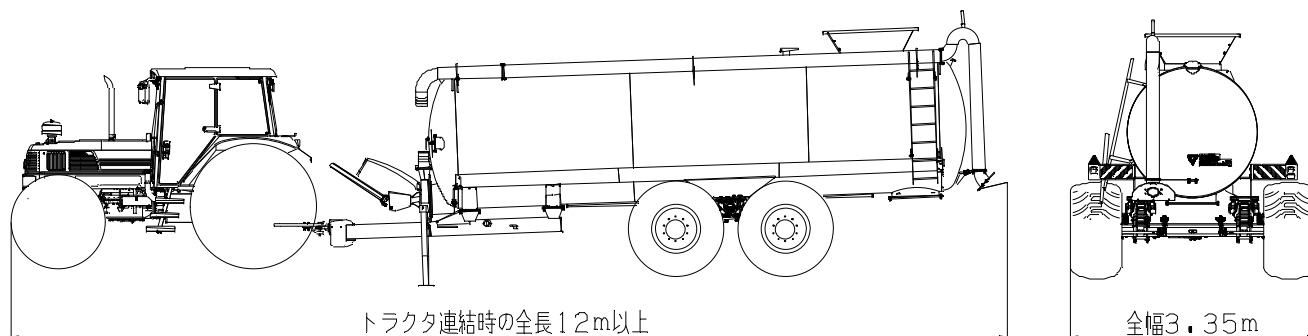
セーフティチェーン

詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouodo.html>)をご覧ください。
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

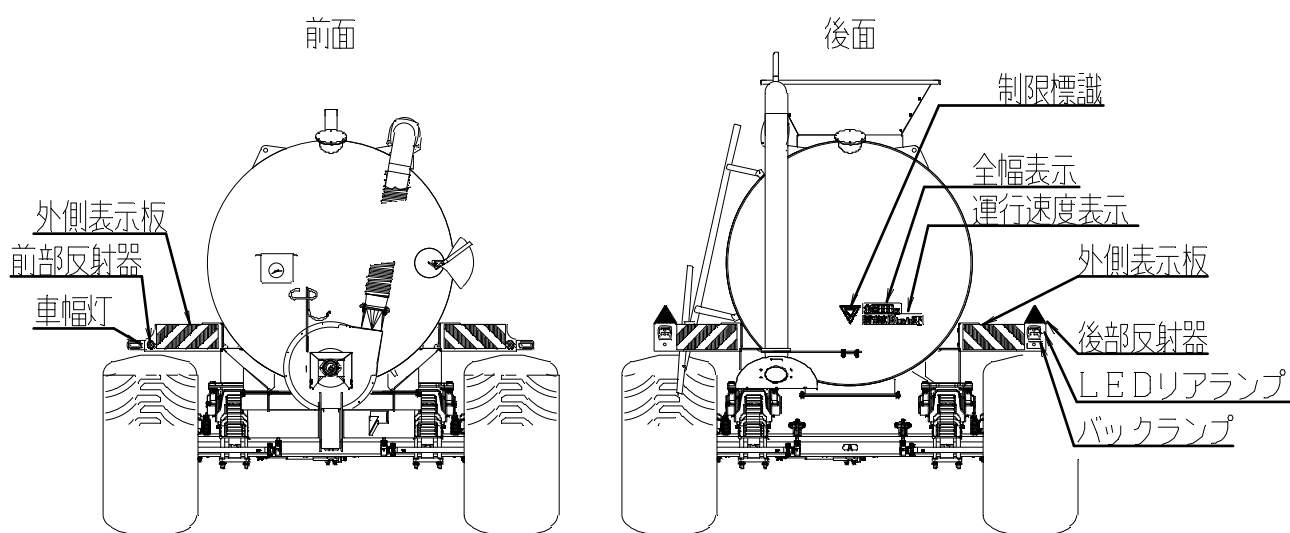
⚠ 安全に作業するために

(5) 本機の公道走行対応について

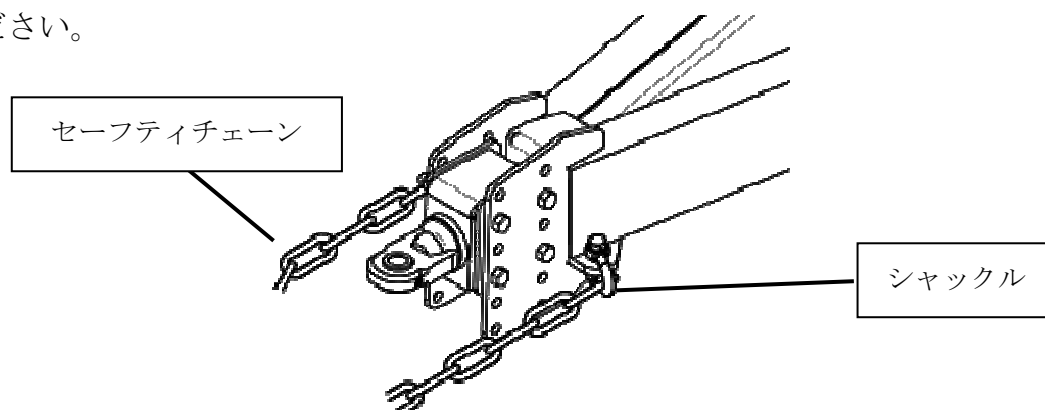
本機は、全幅が2.5mを超え、トラクタとの連結全長が12mを超える作業機です。そのため、トラクタで連結して公道走行する際は道路管理者（地方整備局、地方自治体等）に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。



本機には、下記部品が標準装備されています。保安基準の緩和により運行速度15km/h以下で公道走行することができます。



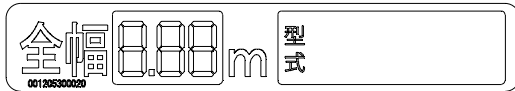
また、トラクタと作業機を連結するためのセーフティチェーンと固定用のシャックルを付属しています。作業機をトラクタでけん引して公道走行する際は必ず取付けてください。取付方法については、P.24・2.『セーフティチェーンの接続』を参照してください。



⚠ 安全に作業するために

トラクタ運転席に表示する、全幅表示と運行速度表示を付属しています。本機は全幅が3.35mであるため、全幅表示には手書きで数値欄に「3.35」、型式欄に「STS18000」と記入していただき運転席から確認できる位置に表示してください。

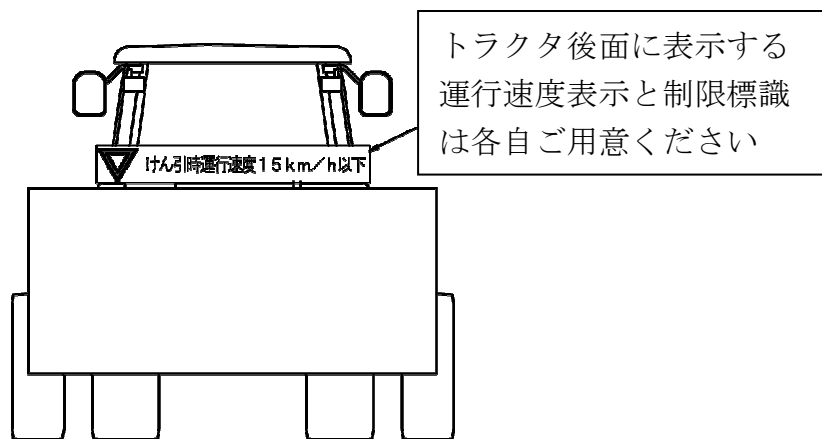
全幅表示（トラクタ運転席用）



運行速度表示（トラクタ運転席用）



ただし、トラクタ後面に表示する運行速度表示及び制限標識は付属されていません。お客様ご自身でご用意ください。



詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/koudo.html>)をご覧ください。

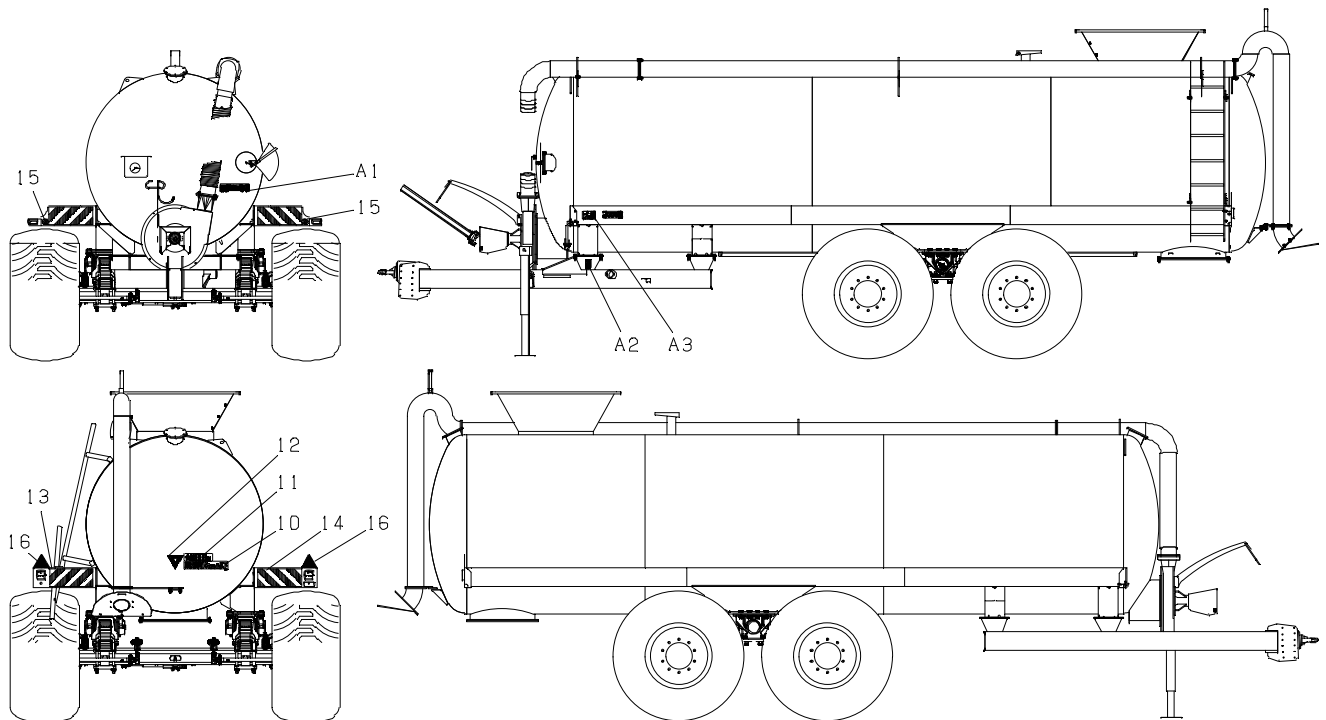
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

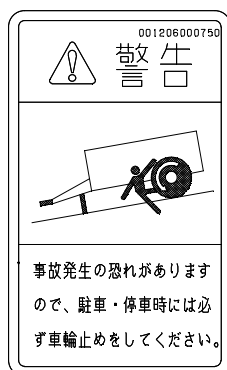
5. 警告ラベルの貼付位置



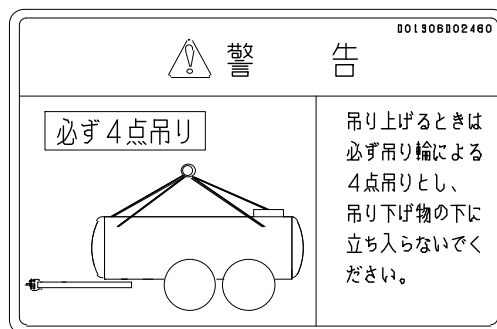
Ⓐ①部品コード 00130-6200-650

⚠ 注 意		⚠ 警 告		⚠ 危 険		
1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟読するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン起動前に機体の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず		 高圧・高温度の噴射注意	 PTO回転速度は 540min⁻¹ (rpm) 以下で作業してください。	 作業中以外の人や動物を近づけないこと。	点検時 エンジン 停止 ・エンジンをかけたまま点検や整備をするときケガをするおそれがあります。 ・かならずエンジンを停止してキーを抜いてください。	 転落事故を防ぐためには走行や急坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないよう充分な前部リフトを装備下さい。

Ⓐ②部品コード 00130-6000-750



Ⓐ③部品コード 00120-6002-460



 安全に作業するために

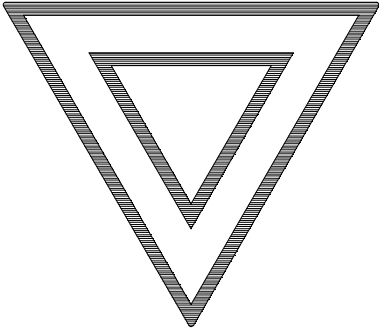
⑩部品コード 00120-5200-050

運行速度15km/h以下

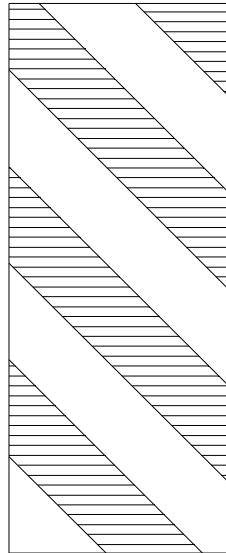
⑪部品コード 00130-5300-140

全幅3.35m

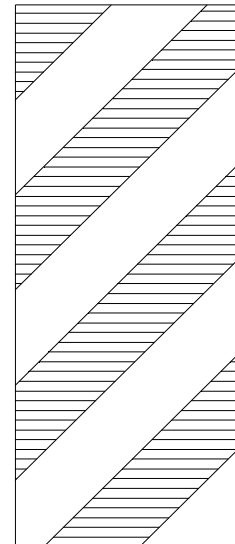
⑫部品コード 00120-6002-260



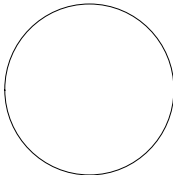
⑬部品コード 00120-6002-320



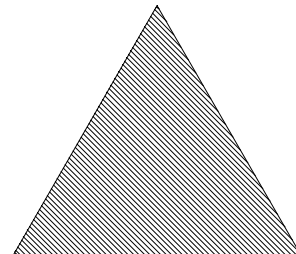
⑭部品コード 00120-6002-330



⑮部品コード 00120-6002-280



⑯部品コード 00120-6002-340



警告ラベルの取扱注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながらかいてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、家畜の糞尿（液状）散布にご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

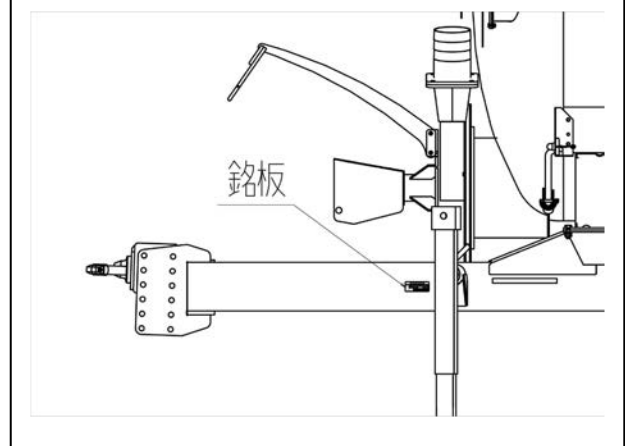
機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所・出張所までご連絡ください。

【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アールまたは〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

(機体銘板貼付け位置図)



【今後の参考のため、次の空欄に機体No.などを記入しておいてください。】

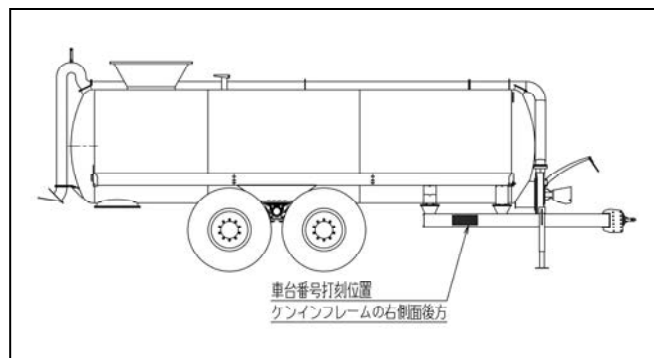
品名	スラリータンカスプレッダ		
型式	STS18000		
機体No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL ()		

車台番号について

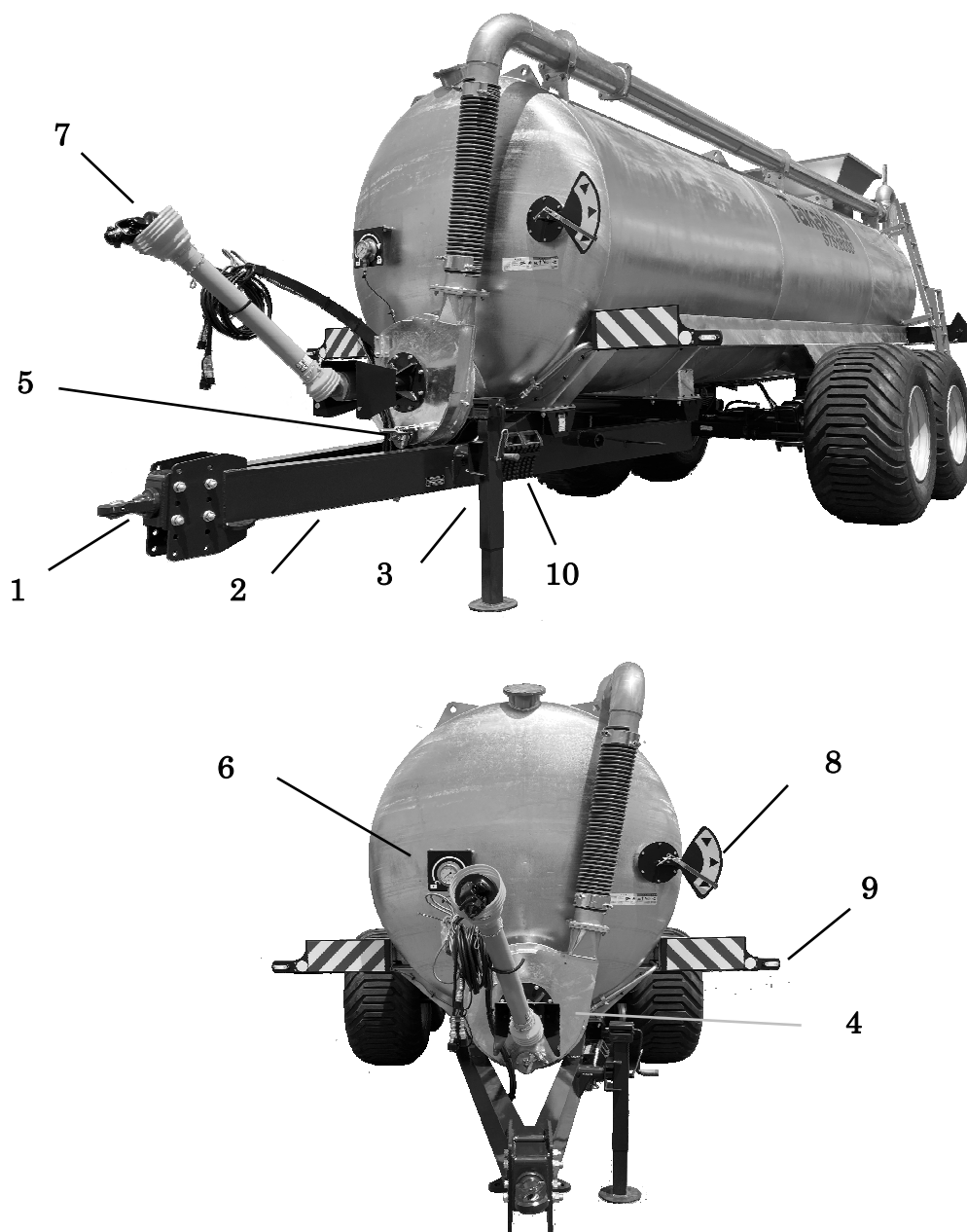
本製品には、上記機体No. と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。

打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。

車台番号
STS18000—****

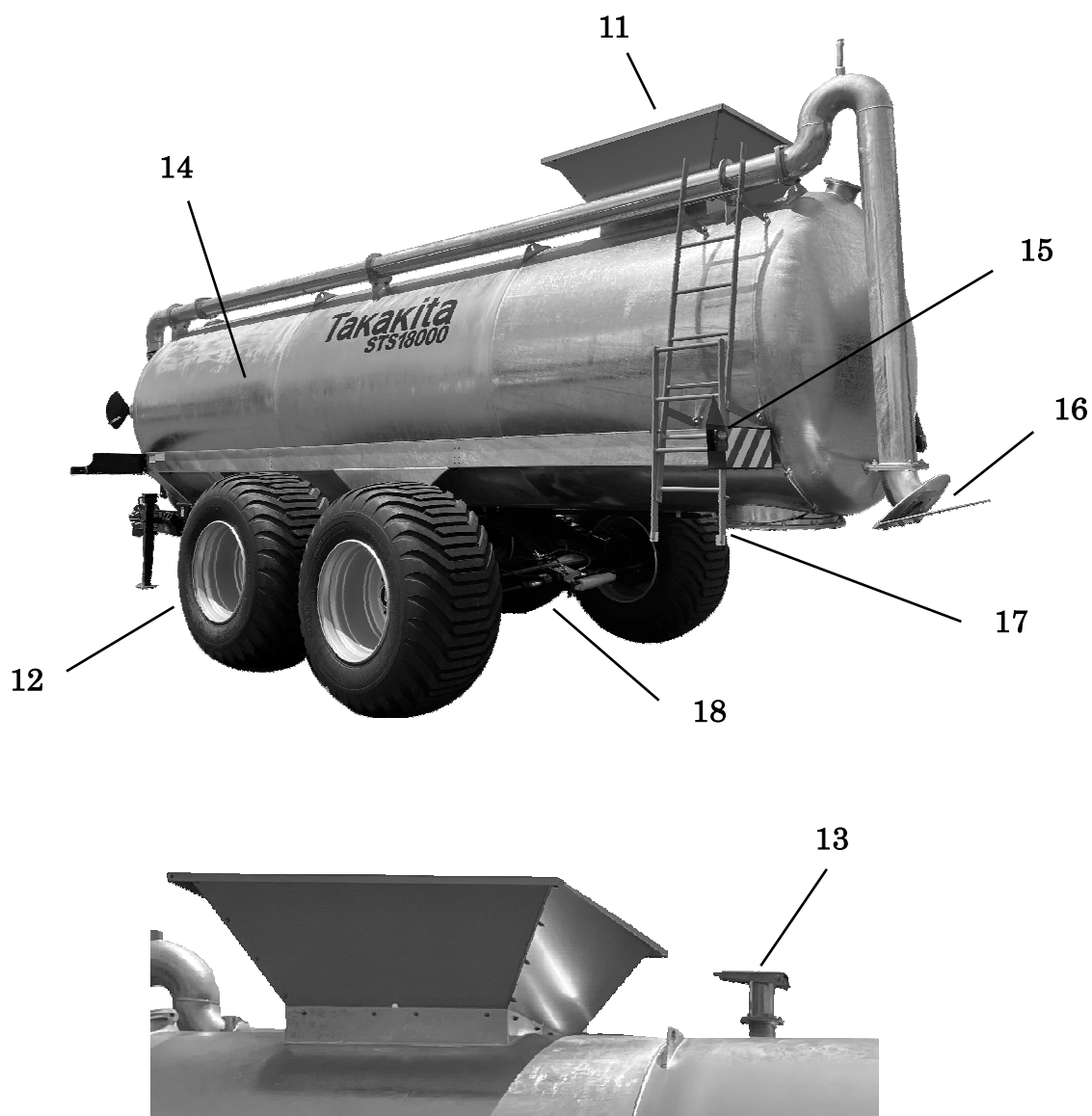


各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	けん引かん	トラクタと連結する
2	けん引フレーム	荷台とトラクタを接続する強度部材
3	スタンド	トラクタの装脱着時及び保管時に使用する
4	ブロワ	スラリーを加圧する装置
5	排水口	ブロワとタンクの水抜き用ドレン
6	ステアリングロックゲージ	ステアリングのロックと解除の確認する
7	ユニバーサルジョイント	トラクタからの動力を本機に伝達する自在継手軸
8	レベルゲージ	タンク内部の液量の表示部。
9	LED ポジションランプ	公道走行時の前方灯火装置（車幅灯）
10	車輪止め	駐車時の車輪止め

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
11	マンホール	スラリーの投入口
12	タイヤ	フレームと共に車体を支える
13	満水指示計	オーバーフローを防止する指示計
14	タンク	スラリーを貯める本体
15	LED リアランプ、バックランプ	公道走行時の後方灯火装置
16	散布口	スラリーの散布部
17	はしご	折り畳み式はしご
18	ステアリング	旋回時に後部タイヤの向きを偏角する装置

トラクタへの装着



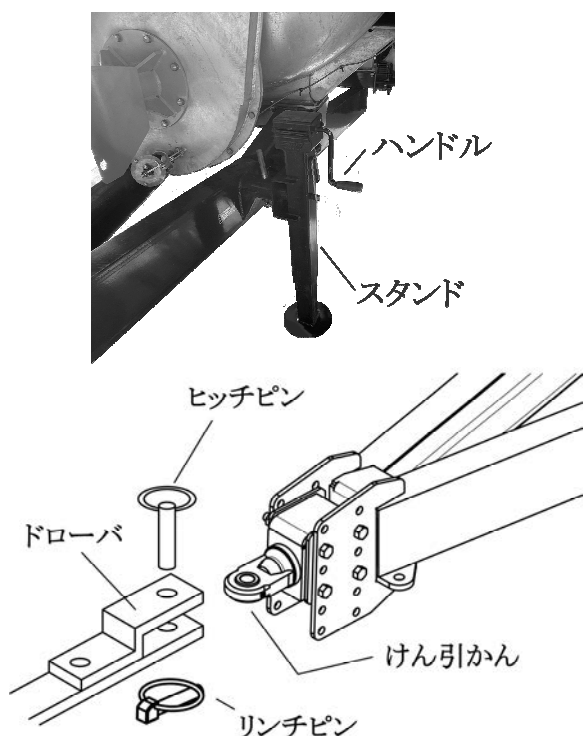
警告

- トラクタへの本機装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
 - ドローバへの装着はトラクタの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
 - ユニバーサルジョイントの接続は、必ずトラクタのエンジンを止め、PTOクラッチを切ってから確実に取付けてください。
- 以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. 装着のしかた

◆ドローバへの装着

- ①ドローバを一番短い位置にしてください。
- ②本機、けん引かんの取付部を、スタンドのハンドルを操作してトラクタのドローバの高さに合わせ、トラクタを後進し、穴位置を合わせてヒッチピンで確実に装着してください。



注意

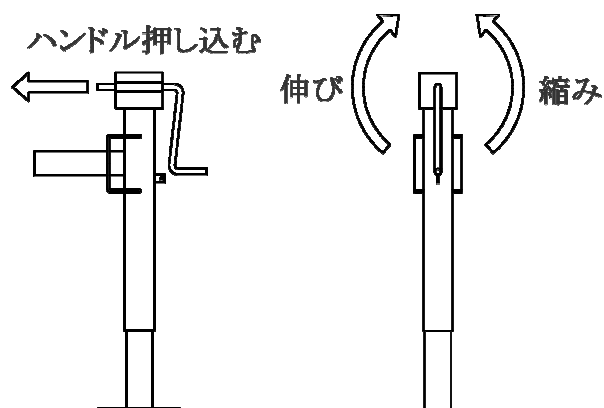
- ドローバを最短にして、本機を装着してください。
- ヒッチピン挿入後は必ずリンチピンを入れ、抜け止めしてください。

◆スタンドの操作方法

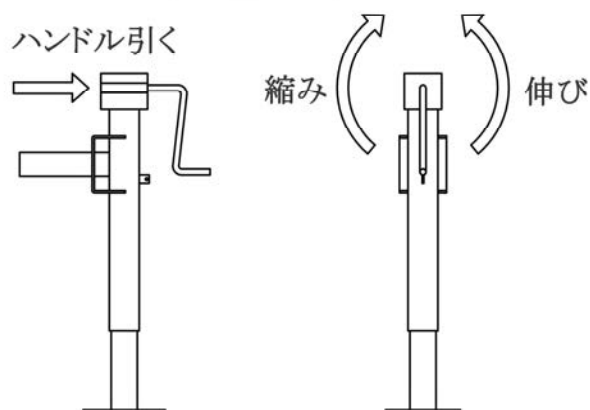
- ①スタンドはネジ式スタンドを使用しています。(空車時しか使用できません)
- ②ハンドルを回してスタンドを縮めます。ハンドルの操作方法は右図の通りです。(スタンド上面にも記載されています)

スタンドの伸縮方法

低速回転



高速回転



トラクタへの装着

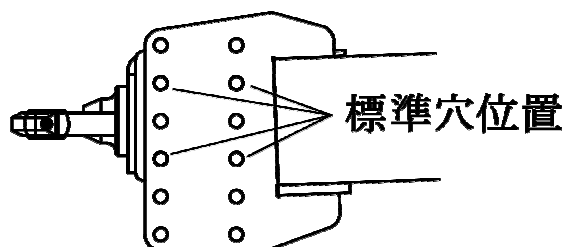
◆けん引かんの高さ調整

トラクタ装着時、けん引かんの取り付け位置によって姿勢を調整できます。

機体角度が地面に対し2～3°前傾した

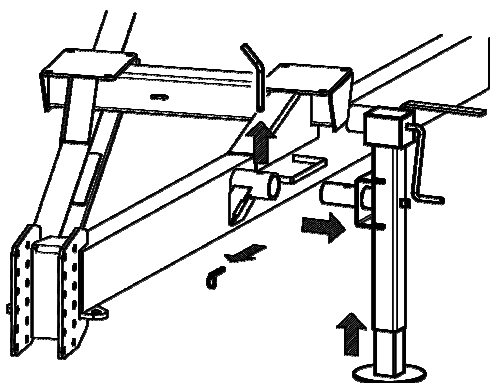
状態になるよう調整してください。

※ユニバーサルジョイントの角度に注意しながら調整してください。

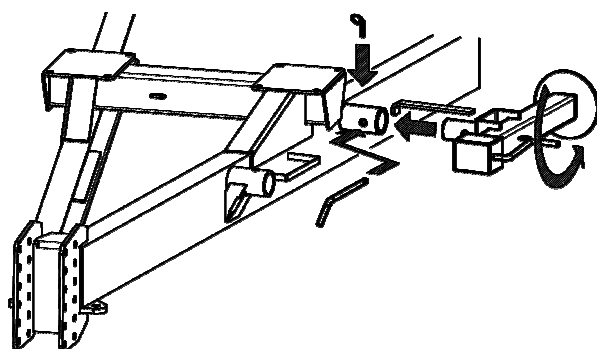


◆スタンドの格納

①スタンドを縮め、固定用エルピンを抜き、スタンド本体を取り外します。



②スタンドを90°左回転させ後ろ側の取付位置に差し込み、再度エルピンを入れスタンドを固定し、ハンドルをストッパで固定します。



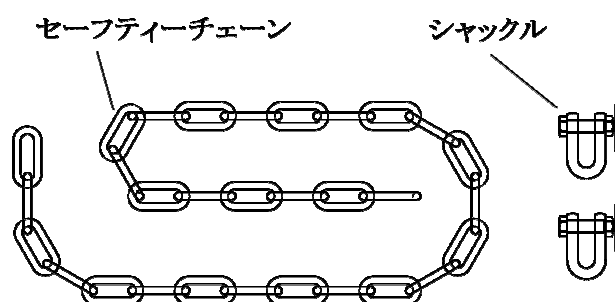
注意

●エルピン挿入後は必ずリンチピンを入れ、抜け止めしてください。

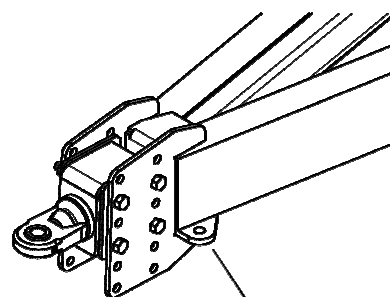
2. セーフティーチェーンの接続

◆作業機を農耕トラクタでけん引して公道走行する際はセーフティーチェーンでの連結が必要です。

セーフティーチェーン1本とアールピン付きのシャックル2個を付属しています。本機をトラクタでけん引し公道走行する際は、必ずチェーンで作業機とトラクタを連結した状態で走行してください。



①セーフティーチェーンの片端をシャックルを使用して本機ケンインフレーム左前方の穴へ固定します。

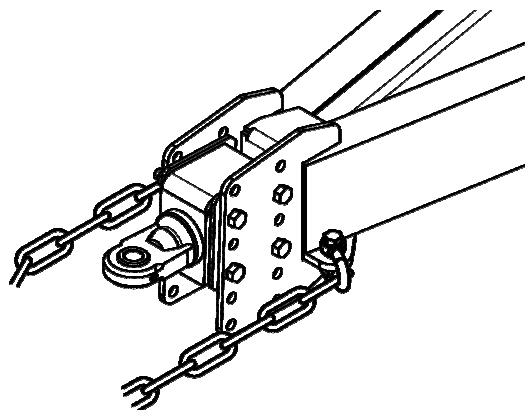


②チェーンをトラクタのドローバ部に回しかけ、トラクタから外れないようにします。



トラクタへの装着

- ③本機ケンインフレーム右前方の穴へ
シャックルを使用して固定します。



注意

- シャックル固定後は必ずアールピンを入れ、抜け止めしてください。
- 旋回時にチェーンがドロバ等に引っかからない事を確認して下さい。

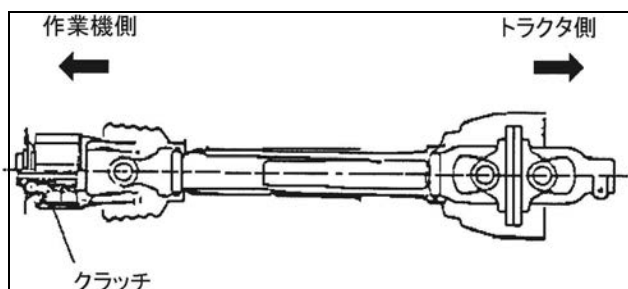
3. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタ
P T O軸に確実に取付けてください。

⚠ 注意

下図のようにクラッチ側を作業機に
取付けてください。

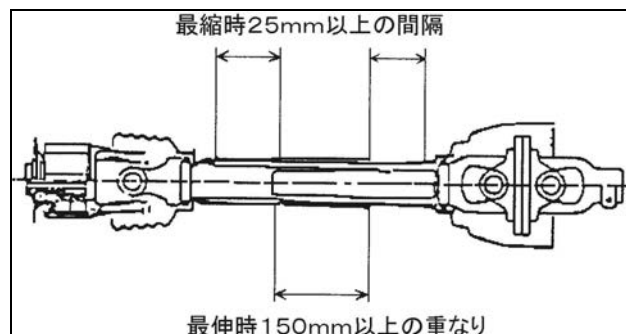


◆ ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは本機が旋回するとき
に変化します。

先に、ジョイントが長過ぎないかを確認し
てください。

長すぎるときは、下図の寸法が確保できる
ように切断してください。



注意

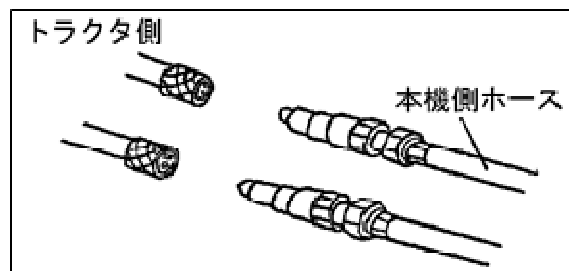
作業時のジョイント角度は作業機側で
最大25°（度）、トラクタ側ワイド
アングル側で60°（度）を越えない
よう調整してください。

※25°（度）及び60°（度）を
超えるとジョイント破損の原因と
なります。

4. 油圧ホースの接続

◆ 通常作業時の接続は残圧を抜いてから

- ①トラクタの油圧レバーを操作して残
圧を抜きます。
- ②油圧ホースをトラクタに接続してく
ださい。



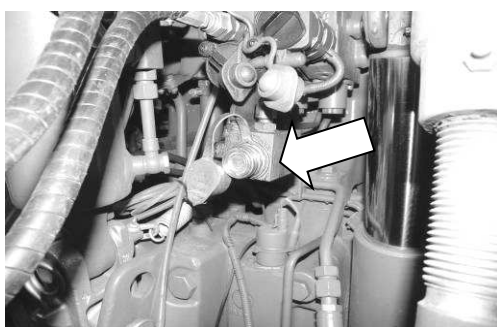
注意

- 油圧ホースを取外す場合は、トラクタの
油圧レバーを押し引きしてトラクタの
残圧を確実に取り除いてください。
- 油圧ホースをトラクタから外したとき
は必ず付属のダストキャップをカプラ
に差込み、傷をつけないようにしてく
ださい。

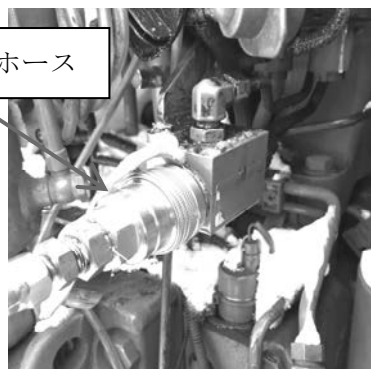
トラクタへの装着

③連動油圧ブレーキ付きのトラクタには、連動ブレーキを接続できます。本機の油圧ブレーキカプラをトラクタの連動油圧ブレーキカプラに接続して下さい。接続後、ブレーキが作動しているかを低速で走行し確認して下さい。連動油圧ブレーキの作動油圧力は、15MPa（150kgf/cm²）以下で使用してください。

トラクタの油圧ブレーキ接続口



ブレーキホース

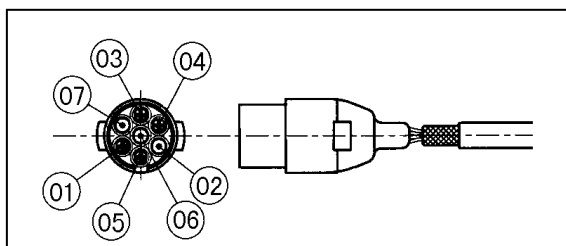


注意

- トラクタの油圧カプラのメーカー及び規格が異なると、油圧が正常に作動しません。必ずトラクタに合った油圧カプラを使用してください。

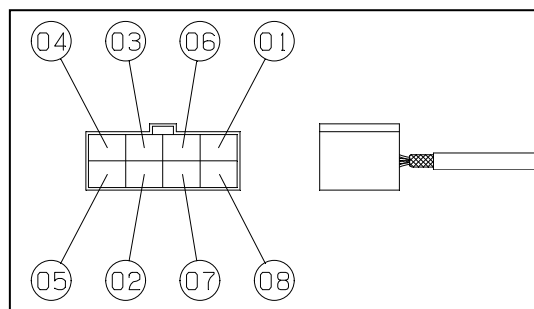
5. 灯火装置の接続

- DIN 規格 7P コネクタ



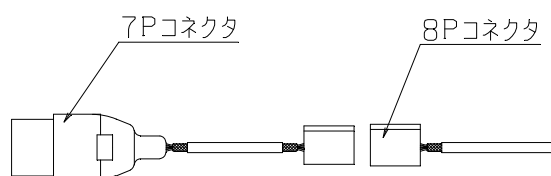
端子No.	配線色	接 続 機 器
01	白色線	アース
02	黒色線	尾灯・番号灯・車幅灯
03	黄色線	方向指示灯（左）
04	赤色線	制動灯
05	緑色線	方向指示灯（右）
06		（未使用）
07	茶色線	後退灯

- 日農工規格 8P コネクタ



端子No.	配線色	接 続 機 器
01	白色線	アース
02	黒色線	尾灯・番号灯・車幅灯
03	黄色線	方向指示灯（左）
04	赤色線	制動灯
05	緑色線	方向指示灯（右）
06		（未使用）
07	茶色線	後退灯
08		（未使用）

8P コネクタでトラクタに接続する場合は、先端の 7P コネクタを外して使用してください。



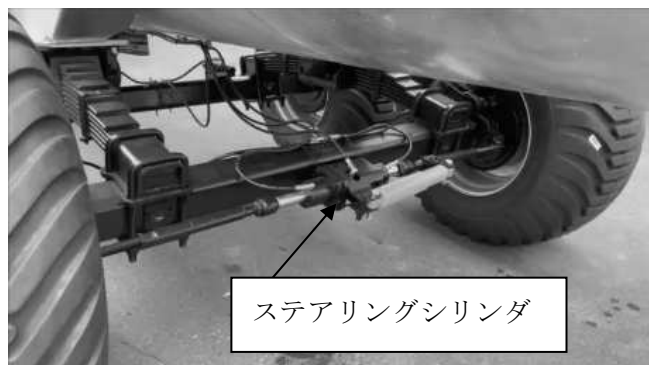
運転に必要な装置の取扱い

1. ステアリング機構の取扱い

◆ステアリングロックの操作方法

本機は油圧によりステアリングを直進方向でロックすることが可能です。

- ①公道走行時、後退時は油圧を利かせ、ステアリングをロックしてください。
- ②作業時には油圧を抜き、ステアリングのロックを解除してください。



◆ステアリングロックゲージによる確認

油圧を利かせると、ステアリングがロックされます。前側ゲージの針が右側に振れます。



油圧を抜くと、ステアリングのロックが解除されます。前側ゲージの針が0に戻ります。

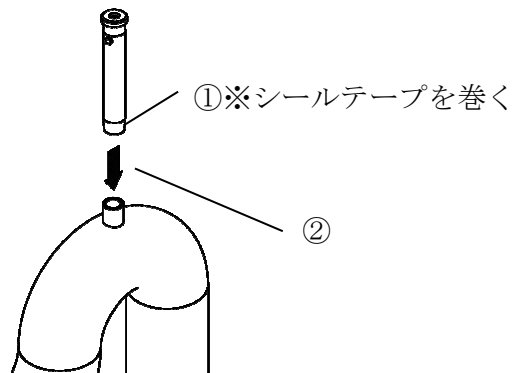


2. チェック弁の取扱い

◆チェック弁の組立

次の手順で組付けてください。

- ①チェックベンホンタイのねじ部にシールテープを巻きます。
- ②本機配管トシュツカンウシロの上部にパイプレンチ等でしっかり締め込みます。



3. ハシゴの取扱い

タンク左後ろ側に備え付けの折り畳み式ハシゴによりタンク上部に上ることが可能です。

◆ハシゴの展開方法

- ①ハシゴシタに掛けてある板バネを外側に開き、ロックを解除します。



運転に必要な装置の取扱い

- ②ハシゴシタを手で支えながら回転支点から展開します。

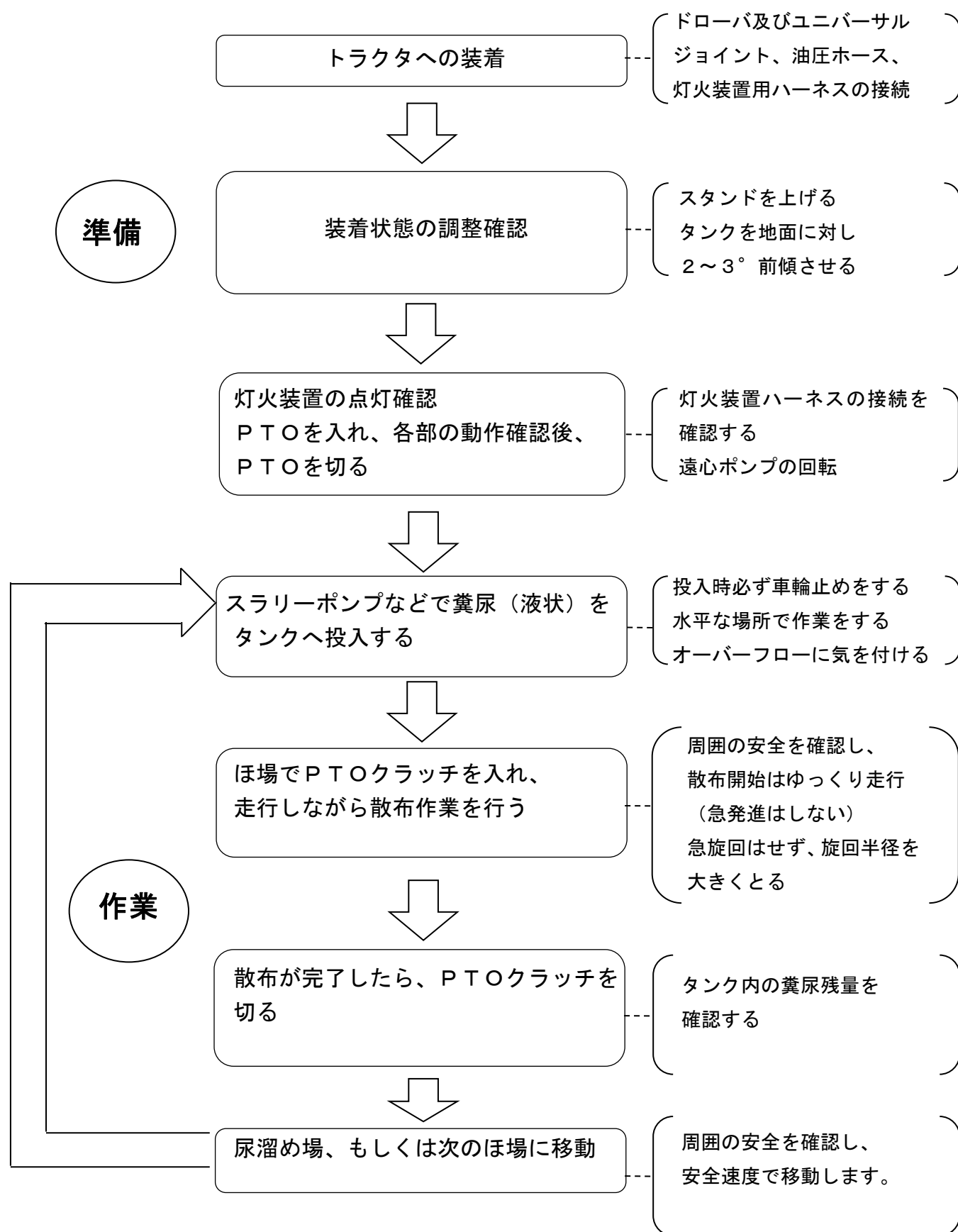


注意

- ハシゴを展開する際は、指などを挟まないよう注意してください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 移動するときは

移動するときは、トラクタのブレーキがきく、安全な速度で走行してください。

注意

- 下り坂を走行する場合は、トラクタのエンジンプレーキを使用してゆっくり走行してください。

警告

- 本機を装着しての運転は、まわりの条件に適した速度で行ってください。絶対に急発進、急ブレーキ、急ハンドルは行わないでください。
- 旋回するときは、重心の変化や機械の長さ、幅に十分注意してください。
- 投入作業時や本機を停止させているときは、必ず車輪止めをしてください。これを怠ると、事故が発生するおそれがあります。

3. タンクへの投入

- ①タンクのマンホールとスラリーポンプなどのスラリー吐出口を合わせ、本機を停止する。
- ②本機が動かないよう車輪止めをかける。
- ③スラリーの投入ポンプを作動させ、スラリーをタンクに入れる。
- ④作動時、満水状態に近づくと、マンホールの近くに装備している「満水指示計」が立ちます。
- ⑤満水指示計が立ち上がったたら、直ぐにスラリーの投入ポンプを停止してください。投入作業の終了です。

※満水状態はタンク前部の「レベルゲージ」でも確認できますが、タンクの傾斜で満水位置が変わります。

従って満水指示計の立ち上がりで確認して下さい

注意

- 投入作業中は、投入物をオーバーフローさせないように、絶えず気をつけてください。
- 満水指示針が立ち上がったたら、直ちにスラリー投入ポンプの稼動を停止してください。



4. 散布作業

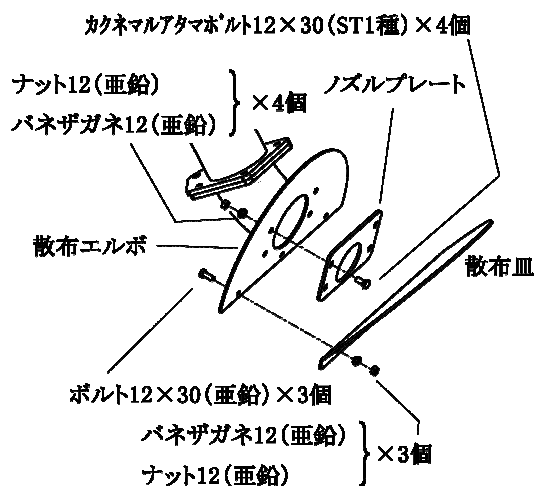
注意

散布作業に入る前には、周囲に人や動物がいないことを確認してください

- ①PTO回転速度を約 540min^{-1} (rpm) にして走行散布してください。
- ②作業時・前進時はステアリングロックを解除し、後退時はステアリングをロックしてください。

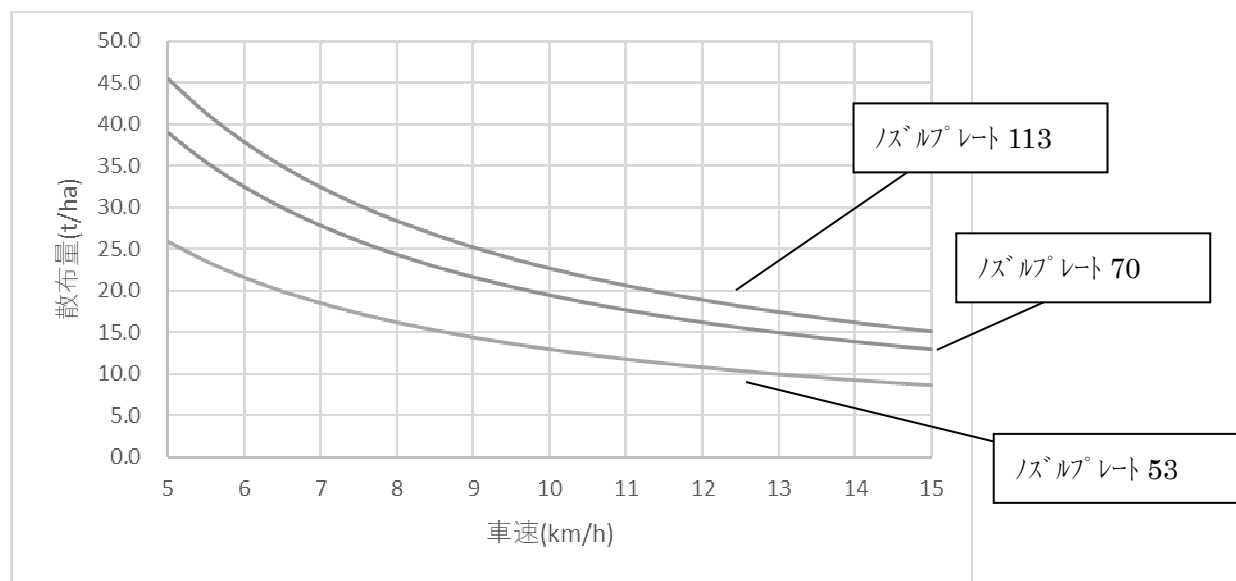
◆散布量の調整

散布口に取り付けるノズルプレートを組み換えることで散布量を調整することができます。



作業方法

散布量（多い⇔少ない）の調整は、ノズルプレートの組み換えと作業速度の変更で行います。以下に散布量の参考値を掲載します。



口径	散布量(L/min)
ノズルプレート 113	4800
ノズルプレート 70	4150
ノズルプレート 53	2700

5. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行、急ハンドル禁止

等高線に対して直角走行し、旋回は速度を落とし、急ハンドルは切らないでください。



警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので、決して行わないでください。

6. タンクの洗浄

◆タンク内を洗浄するときは

タンク内に水を約 1/4 ほど入れて、前後進を繰り返して洗浄します。洗浄後の水は、散布場で前項同様に散布してください。



警告

タンク内には絶対入らないでください。酸欠状態となり、非常に危険です。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



- 取り外したカバー類は必ず取付けてください。衣服等が巻き込まれる恐れがあります。
 - 点検は地面が平坦で硬く、広く明るい場所を選び、PTO と油圧を切りエンジンを停止させ、車輪止めで歯止めをしてから行ってください。
- 守らないと、機体が動き出し傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検一覽表

No.	項目	内容	参照ページ	チェック
1	ユニバーサルジョイント	取り付けが完全か	25	
2	タイヤ空気圧	不足の時は、空気補充	33	
3	各配管とホースの漏れ	取付けが完全か破損は無いかな	25, 26	
4	各部のボルト・ナット	ゆるみ、ガタつきがあれば増締めする		
5	各部の注油・グリスアップ	各部のグリスアップ参照	35	
6	警告ラベルの剥がれ、破損	新しいものに貼り換える	18, 19	
7	反射器、灯火装置の汚れ、破損	汚れは掃除、破損の場合は交換		

以上について、異常が認められない場合は、P T O回転速度を $450 \sim 540 \text{min}^{-1}(\text{rpm})$ まで徐々に上げ、1～2分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

[illegible]

簡単な手入れと処置

1. シーズン終了後のタンク内の洗浄

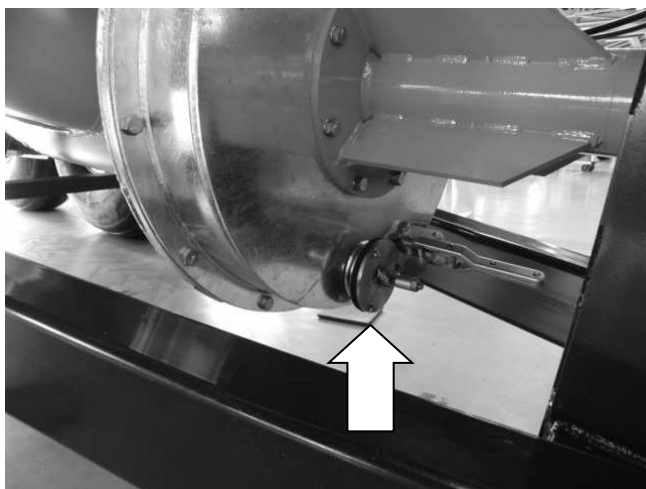
シーズン終了後は、タンク内の洗浄をしてください。

◆洗浄方法

- タンク内に水を約 1/4 ほど入れて、前後進を繰り返して洗浄します。
- 洗浄後の水は、ほ場に散布してください。
- タンク前部の遠心ポンプ下部に装備している排水口を開ける。

排水口の開け方

ロックレバーを緩めレバーを倒すと、押さえ板が手前に引き出ます。



- タンク内の洗浄水が抜けた後、水漏れしないよう注意し、押さえ板を元通りに取付けてください。



警告

タンク内には絶対に入らないでください
酸欠状態となり、非常に危険です。



危険

点検や清掃、洗浄を行うときは、必ず
エンジンを停止させてから行ってくだ
さい。

これを怠ると重大な傷害事故につな
がるおそれがあります。

2. タイヤの点検、修理

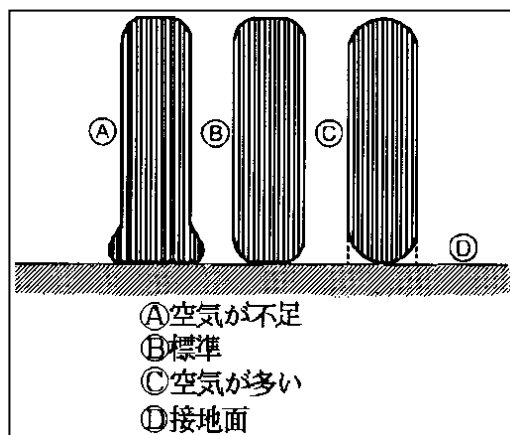
◆装着のタイヤと空気圧

本機のタイヤと空気圧は下記のとおり
です。定期的に点検してください。

また、ホイールを止めているハブナットは、
凹凸の多いほ場では初期段階にゆるむ場
合があります。

定期的に点検し、ゆるんでいる場合は下
図の順序で増し締めしてください。

外観からタイヤ空気圧を判断する目安は
次の通りです



タイヤのサイズと規定空気圧

タイヤサイズ : 700/50-26.5 16PR(チューブレス)

空気圧 : 240kPa (2.4kg/cm²)

ホイールナットの締付け順序



本機に装着しているホイールナットの締付トルク

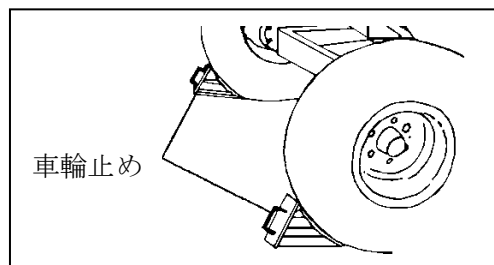
ホイールナットサイズ : M22×P1.5

締付トルク : 450～510N・m

簡単な手入れと処置

⚠ 警告

- ・タイヤに関する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車輪止めを行ってください。



- ・タイヤ及びホイールに関する修理は、十分な設備をもったタイヤショップなどの専門のところに依頼してください。

⚠ 警告

- タイヤ空気圧は取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破損の恐れがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破損の恐れがあります。
- タイヤ・ホイールなどに関する交換・修理などは、十分な整備設備を持ち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップなどの専門店で依頼してください。

3. 車輪止め

駐車時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをして下さい。使用後はフレーム部へ格納して下さい。



⚠ 警告

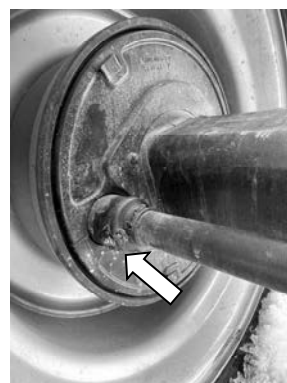
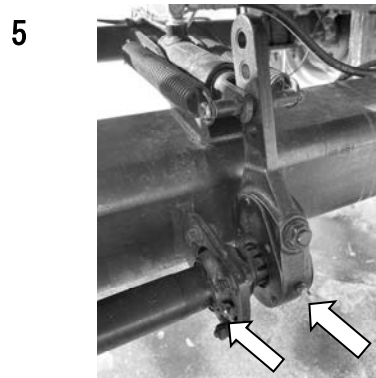
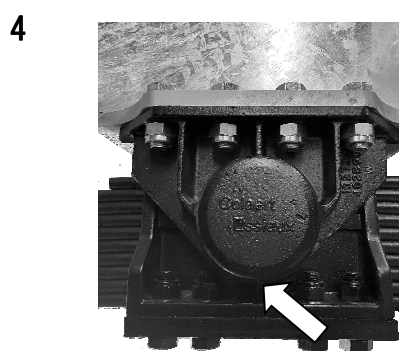
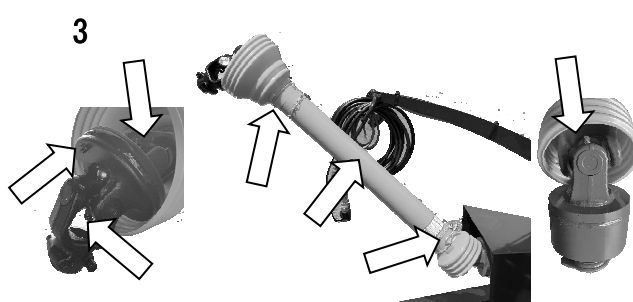
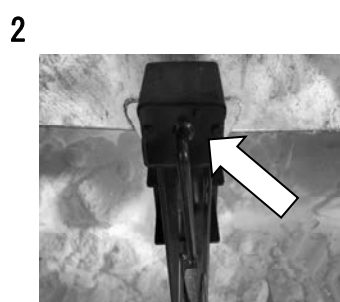
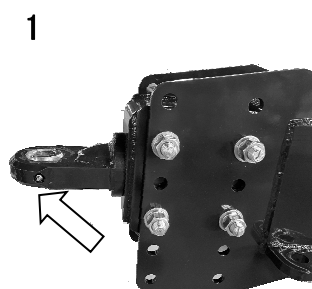
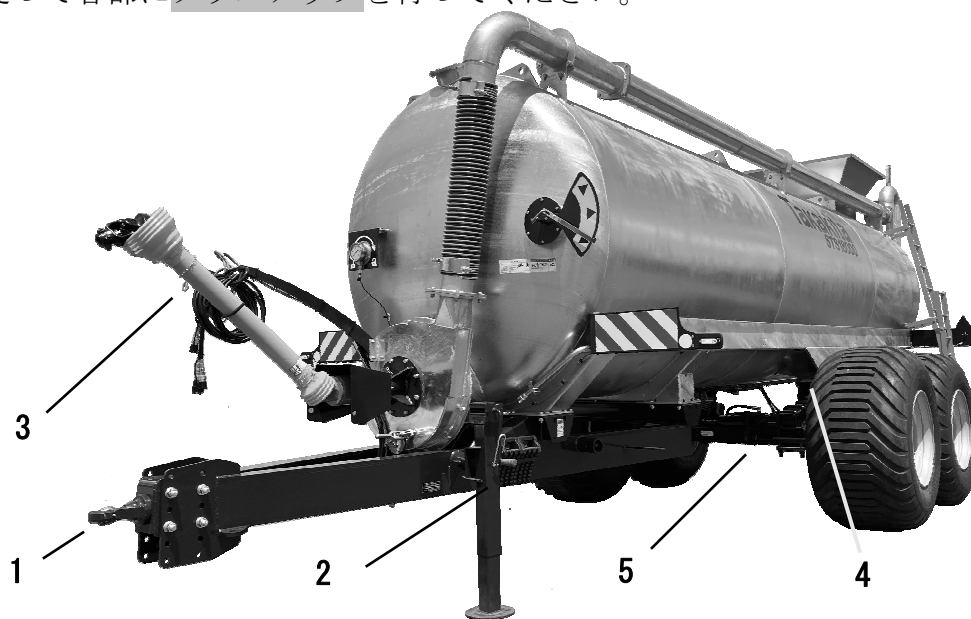
本機をトラクタから切り離したときも必ず車輪止めで歯止めをしてください。本機が動き、思わぬ事故の原因になります。

これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります

簡単な手入れと処置

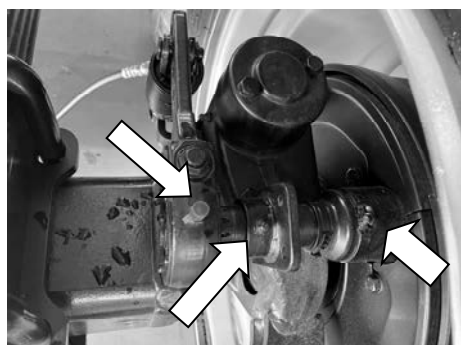
4. 各部のグリスアップ

図表に従って各部にグリスアップを行ってください。

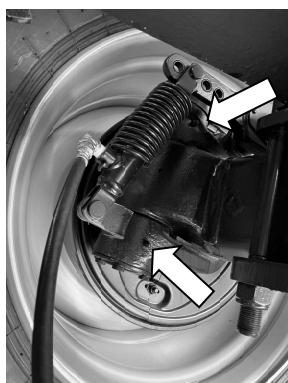
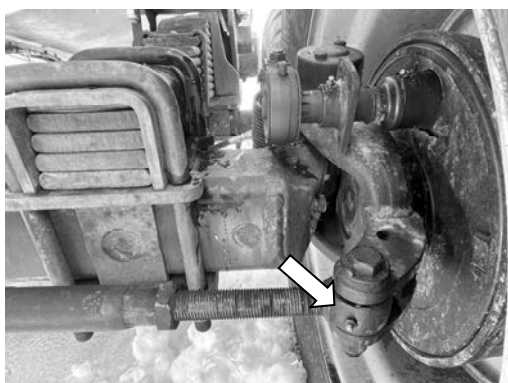


簡単な手入れと処置

6



7



図番	場 所	グリスア ップ 時間	備 考
1	けん引ヒッチ	50H	1箇所
2	スタンド	100H	1箇所
3	ユニバーサルジョイント	50H	7箇所
4	ボギー軸	50H	左右各 2 箇所
5	ブレーキ前	50H	左右各 3 箇所
6	ブレーキ後	50H	左右各 3 箇所
7	ステアリング	50H	左右各 3 箇所

5. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した糞尿や泥などを洗い落としてください。
- タンクに水を入れ、タンク内も洗浄してください。
- 乾燥後、回転部、摺動部には十分に注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、塗料を塗って錆びないようにしてください。

- 格納するときは、雨やほこりのかからない屋内の平坦な場所で保管してください。
- グリスアップし保管してください。

不調診断

不調内容	診 断	処 置	参照
散布できない	●配管が異物等で詰まっている ●ブロワが駆動していない ●配管等、散布管部が凍結している	●配管の異物を取り除く ●ブロワを分解して修理する ●凍結部を温めて解凍する	
散布量が少ない	●PTO の回転速度が低すぎる ●ブロワにゴミが詰まっている ●配管等、散布管部が凍結している	●$540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ まで回転を上げる。 ●遠心ポンプを分解して、ゴミを取除く。 ●凍結部を温めて解凍する	
散布量が多い	●PTO の回転速度が高すぎる	●$540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ まで回転を下げる	
連動油圧ブレーキが作動しない	●油圧カプラの接続が悪い ●トラクタの油圧オイル不足	●油圧カプラを確実に接続する ●油圧オイルを補充する	25～26
LED ランプ、バックランプが点灯しない	●コネクタの接続が悪い ●ハーネスが途中で破損している	●コネクタを確実に接続する ●新品に交換する	26
ポジションランプが点灯しない	●コネクタの接続が悪い ●ハーネスが途中で破損している	●コネクタを確実に接続する ●新品に交換する	26

付表

1. 主要緒元

品 名	スラリータンカスプレッダ	
型 式	STS18000	
装着方法	ドローバけん引式（カテゴリⅡ、Ⅲ）	
駆動方法	P T O 駆動（回転速度 540min ⁻¹ (rpm)）	
適用トラクタ	110.3 kW ～ （150 PS ～）	
最大散布幅	13 m	
油圧取出	トラクタ 連動油圧ブレーキ	複動油圧 1 系統 油圧 1 系統
積載容量	18,000 L	
機 体 寸 法	全 長	9,520 mm
	全 幅	3,350 mm
	全 高	3,520 mm
質 量	6,400 kg	
車輪配列	2 軸 4 輪（リーフスプリング式）	
タイヤサイズ	700/50-26.5 16PR	
吐出量（スラリー）	4800(L/min) / 4150(L/min) / 2700(L/min)	

※この主要緒元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. 油圧回路図

トラクタ側

